

2018 北いわての魅力伝える広報誌

北いわて最前線



県北広域振興局



新しい三陸の
創造を目指す。

来年開催！地域の元気な姿を届けます
特集1 p2
三陸防災復興プロジェクト2019

特集2 p4
身近なところに大自然
三陸ジオパークを学ぶ！知る！楽しむ！

p6
[県北広域トピックス 2018]
ゆたかさ・つながり・ひと
県民の生活を豊かにする。希望郷いわて

p8
甘い果実が自慢！
フルーツの里カシオペア連邦大特集
[アンケート & 読者プレゼント]

地球の迫力を
感じよう。

甘い果実が自慢！ フルーツの里カシオペア連邦 大特集

二戸地域には甘くておいしいフルーツがたくさん！
季節ごとにいろいろな果物が実ります。
これからの季節におすすめの美味しい情報をお届けします。
大事に育てたプレミアムな果物を味わってみませんか？



さくらんぼ収穫体験の様子(7月：一戸町)

カシオペア連邦はフルーツの里！

二戸地域は、降水量が少なく日中の寒暖差が大きいことから、甘くておいしい果物が四季を通じて実り、品質の優れたブランド果物が多いことが特徴です。
ブランド果物と産地のことを、もっと多くの方に「知ってもらう・買ってもらう・来てもらう」取組として、県では「カシオペア果物振興プロジェクト事業」を実施しています。
テレビやラジオでの産地情報やブランド果物の紹介、生産者組織である二戸地方観光農業推進協議会主催のさくらんぼやりんごの収穫体験ツアー開催など、産地一体となって取組を進めています。

いわてブランド果物きょうだい

「応援隊」として活躍中です！
二戸地域のブランド果物PRキャラクター「いわてブランド果物きょうだい」もフルーツの里を応援しています！



旬の果物カレンダー

7月 夏恋(かれん)
「佐藤錦」の中から、大粒で色が濃く、糖度の高い果実を厳選した「夏恋(かれん)」は県内でもトップブランドのさくらんぼだよ！

8月 カシオペアブルー
ブルーベリー品種「チャンドラー」から選別した直径24mm以上の大きい果実は「カシオペアブルー」というブランドで贈答用として出荷されているよ。

9月 10月 紅いわて
「紅いわて」は、平成21年に生まれた岩手オリジナルのりんごだよ。ブランドりんごのシーズンの始まりを告げる、着色がよく糖度が高いりんごとして人気の。

11月 カシオペア・クイーンサンふじ
りんごの王様「ふじ」の中でも、特に糖度が高く蜜の入ったものを光センサーを使って厳選した「カシオペア・クイーンサンふじ」は贈答用として非常に人気の高いりんごだよ。

12月 冬恋(ふゆこい)
甘く黄色い品種「はるか」、中でも雪が降る時期まで糖度を高め、蜜がたっぷり入った「冬恋(ふゆこい)」は、香り・甘さ・歯ごたえともに最高級のりんごなんだ！

フルーツ観光ドライブマップ
「フルーツ3味のドライブしませんか？」
二戸地域振興センターでは、二戸地域でフルーツを購入できる産直や、摘み取り体験ができる場所を紹介しているドライブマップを作成しました。県のHPからダウンロードが可能です。ぜひ手にとってご覧ください。

読者プレゼント | アンケートにお答えいただいた方々の中から、抽選で合計10名様にプレゼント!!

甘茶ドレッシング 3本セット
120ml×3本
金田一味蓄舎(二戸市)

九戸村産の甘茶とカシオペア連邦の名産フルーツを使用した、砂糖不使用、低オイル、塩分控えめのドレッシングです。お子様からお年寄りまで、美味しくいただけるライトな口当たりで、健康を気遣う方にもお勧めです。

応募方法
[送り先] はがき 〒028-8042 久慈市八日町1-1
県北広域振興局「北いわて最前線アンケート」係
FAX 0194-53-1720 電子メール BK0001@pref.iwate.jp
[締切] 平成30年10月19日(金) 消印有効

「北いわて最前線」を最後までお読みいただき、ありがとうございます。今後より一層、誌面を充実させるため、読者の皆様の「声」をお聞かせください。

- 今回の記事に興味を持ったものは何ですか？(番号で回答、複数回答可)
① 特集1 三陸防災復興プロジェクト2019
② 特集2 三陸ジオパークを学ぶ！知る！楽しむ！
③ 県北広域トピックス2018
④ フルーツの里 カシオペア連邦
- 本紙への御意見・御要望や、今後掲載して欲しい内容がありましたら、御自由にお書きください。
- 県北広域振興局に対する御意見・御要望がありましたら、御自由にお書きください。

※ 回答は、右の二次元バーコードを読み込んで応募フォームからご応募ください。なお、はがき・FAXでもご応募いただけますので、住所・氏名・年齢・性別・電話番号をお書きの上、お送りください。

スマートフォン用

県北沿岸地域のこれまでの復興状況

復興の大きな柱は「安全の確保」「暮らしの再建」「なりわいの再生」の3本です。多くの人たちの支援を受けながら、取組を進めています。

Interview

「形の復興」の次は「心の復興」



野田村復興むらづくり推進課 (応援職員)

榊 順一さん

野田村は息子2人が久慈工業高校出身であることから知人も多く、震災前から馴染みがありました。久慈市役所で土木技術職として働いた経験を村の復興に少しでも役立てたいと思い、定年退職後、応援職員として採用になり、今年で4年目です。

私が整備に携わった十府ヶ浦公園は昨年7月に完成し、花火大会やマラソン大会、管内中学校の駅伝大会、パークゴルフ等の舞台として活用されています。村民の皆さんが公園を利用し、喜んでもらえることはとても嬉しいことです。様々な施設の整備が完了に向かい、官民協働の管理も始まっており、これからは「心の復興」が大事になると思っています。



地域住民の生命と財産を守る防潮堤が完成しました(野田町)



新しい町の暮らしが始まっています(野田村)



復旧作業が完了し従来通り稚魚の育成が行われています(野田村)

津波によって人命が再び失われることのないよう多重防災型のまちづくりを行っています。様々な自治体の協力を得て、災害に強い交通ネットワークを構築することで、住民の安全の確保に取り組んでいます。野田町八木地区海岸では昨年12月に、長さ400m、高さ12mの防潮堤が完成しました。このうち、水門・陸門については、現在、衛星回線を活用した「自動閉鎖システム」への移行を進めています。人の手を介さずに自動で閉鎖するため、より安全で、冬季や夜間においても迅速かつ確実な閉鎖が可能になります。

安全の確保

地域住民それぞれの住宅や仕事の確保をはじめ、医療・福祉・介護体制など、生命と心身の健康を守る仕組みづくり、さらには地域コミュニティ活動支援などによって、暮らしの再建を図る取組を進めています。久慈地域では、災害公営住宅の整備が完了するなど、暮らしにおけるハード面の復興は着実に進んでいます。さらに、被災者の心身の健康を守るため、野田村で相談会(こころの健康相談センター)を実施しており、ソフト面の復興にも力を入れています。

暮らしの再建

生産者が意欲と希望を持って生産活動を行えるよう、地域産業の再生を図るとともに、地域経済の活性化と地域の特徴を生かした商品の開発など、様々な取組を行っています。野田村の下安家サケマスふ化場は、全国有数のふ化施設です。しかし、東日本大震災津波からの復旧に取り組み中、平成28年台風第10号により、再び壊滅的な被害を受けました。その後早急に復旧が進められ、平成29年度の放流実績は4690万尾と順調に回復しています。水産業は地域を支える基幹産業であることから、今後は安定した漁獲量が期待されます。

なりわいの再生

三陸がつながる。日本各地や世界とつながる。ひとつになって 更に前に進む。

プロジェクト会期
2019. 6/1(土) ▶▶ 8/7(水)



特集1

来年開催! 地域の元気な姿を届けます 三陸防災復興プロジェクト2019

東日本大震災津波から来年で8年目を迎えます。これまでの支援に対する感謝と、新しい三陸を創る決意を込めた「三陸防災復興プロジェクト2019」が開かれます。このイベントは、復興に全力を注ぐ私たちの姿を世界へ届ける絶好の機会です! みんなで盛り上げて、三陸のパワーを発信しましょう。

三陸の今の姿を、国内外に発信する 総合的な防災復興行事

「三陸防災復興プロジェクト2019」が、来年6月1日(土)から8月7日(水)までの68日間にわたって、沿岸13市町村を会場に開催されます。

東日本大震災津波から来年で8年目を迎えます。私たちは多くの人たちに助けられながら、安全な町づくりや交通網の整備など、復興へ向けた取組を進めてきました。その取組を通じて、人と人、地域と地域の絆が生まれ、それが三陸の大きな財産となっています。

このイベントは、これまでの温かい支援に対して「ありがとう」の気持ちを伝える場です。そして、国内外と三陸の交流をひろげ、これからの三陸をもっと元気にしていくきっかけにもなります。



また、来年は、3月に三陸鉄道による久慈・盛間の一貫運行のスタート、9月にはラグビーワールドカップ2019が開催され、本年8月に完成した釜石鶴住居復興スタジアムで試合が行われるなど、まさに国内外から注目が集まる絶好の機会です。このプロジェクトを通して、日本各地や世界の人々に「ありがとう」を伝えましょう。

沿岸13市町村を舞台に 様々なイベントを予定

プロジェクトを主催する「三陸防災復興プロジェクト2019実行委員会」は、3月23日(金)、県内全市町村と関係団体の参画により設立されました。会長を務める達増知事と沿岸13市町村の首長らによる共同記者会見で、達増知事は「このプロジェクトは沿岸だけでなく、内陸部

の市町村や、国、関係団体が連携して取り組むもの。オール若手で三陸の魅力を伝えたい」と述べました。プロジェクトの詳しい内容は11月頃に決定しますが、沿岸13市町村を会場に開催される予定で、「三陸復興シンポジウム」「オールいわて・祭りイベント」「さんりく音楽祭」など、様々なイベントが計画されています。すでに今年から活動がスタートしており、7月7日(土)、8日(日)には関連イベントとして「三陸ぐるっと食堂in OFUNATO」が開催されました。また、8月18日(土)のイベントでは釜石市民ホールTEETOOで、地元の高校生による郷土芸能やシンガーソングライター平原綾香さんのミニライブなどが行われ、会場に集まった大勢の観客を魅了しました(左写真)。



出演者と来場者で合唱を行い、心がひとつになった

プロジェクト会期中は様々なイベントを開催予定!

祭り	三陸地域は地域色豊かな伝統芸能が多数伝承されています。様々なお祭りが集結したイベントを開催します。
観光	特徴的な海岸線が続く三陸海岸は、日本最大のジオパーク「三陸ジオパーク」にも認定されています。ドライブはもちろん、観光やアクティビティも体験できます。
三陸鉄道	三陸海岸を北から南までつなぐ三陸鉄道は、全長163kmの「リアス線」として、2019年3月に全線開通予定です。列車の旅を楽しむイベントを開催します。
防災復興シンポジウム	震災からの歩みと将来の備えを学ぶシンポジウムを開催し、三陸地域の復興の今を世界に発信します。
音楽	復興支援を通じて、地元の住人と交流が生まれた、世界的に有名な音楽家のコンサートを開催します。
食	三陸沖は世界三大漁場の一つに数えられ、新鮮な魚介が魅力です。三陸の海の幸を味わうイベントを開催します。

その他の情報も発信中!

三陸防災復興プロジェクト2019に関する情報は公式ホームページやSNSなどで最新情報を発信中。また、「岩手県公式動画チャンネル」では、このプロジェクトのPR動画を公開しています。ロングバージョンの動画では達増知事と沿岸の各市町村長が一言ずつメッセージを寄せているのでぜひご覧ください。



https://sanriku2019.jp



@sanriku.project.2019



@sanriku_project



県北広域 トピックス 2018

ゆたかさ・つながり・ひと 県民の生活を豊かにする。希望郷いわて

地域医療の次代を担う 人材を育成します

久慈地域の人口10万人当たりの医師数は146.6人、二戸地域では145.5人であり、県全体の207.5人と比較して低い水準にあるなど、医師や看護師をはじめ医療従事者の不足が課題となっています。そこで、将来の地域の医療を担う人材を育成するため、久慈地域では平成22年から毎年、医師による出前講座と医療現場体験会を実施しています。

今年6月から7月にかけて、久慈地域の11の中学校で出前講座を開催しました。医療現場の第一線で働く医師が中学校に出向き、生徒たちに仕事のやりがいや医師を目指すきっかけなどを話しました。さらに、8月1日には参加を希望した生徒を対象に、県立久慈病院で医療現場体験会を行いました。参加者は、医療機器を実際に操作するなど貴重な体験を通して、医療に携わる職業への理解を深めました。

二戸地域においても、同様の取組を実施しています。



真剣に学ぶ中学生たち



医療現場体験は毎年好評

お問い合わせ先
東北広域振興局
保健福祉環境部企画管理課
TEL 0194-53-4987
東北広域振興局
二戸保健福祉環境センター管理課
TEL 0195-23-9202

農業と福祉の連携により 相互の課題を解決します

久慈地域では、特産のほうれんそうや菌床しいたけなどの生産現場で、労働力確保が課題となっています。久慈地方農業農村活性化推進協議会は、障がい者が農業の担い手となる「農福連携」の仕組みづくりを行い、課題解決に取り組んでいます。

昨年度は、収穫・調製等の作業を行うほか、ほうれんそう農家でのモデル事例を構築しました。農家からは「作業がしつかりできて助かる」、福祉施設からは「工賃が確保でき、利用者は外での農作業を楽しんでいる」と、お互いに成果を実感できました。今年度は、福祉施設の職員向けに、ほうれんそうや菌床しいたけなどの農作業を理解してもらう見学会を実施しています。

今後、菌床しいたけなどの園芸品目でも実施農家を増やし、農福連携の輪を地域に広げていきます。



農作業見学会で情報交換を行う



作業状況や作業における課題を把握

お問い合わせ先
東北広域振興局農政部
TEL 0194-53-4983

雑穀生産の機械化が 進んでいます

二戸地域は全国有数の雑穀産地であり、雑穀の安全・安心な生産やブランド化を進めてきました。国産雑穀の需要が高まる中、生産規模拡大に向け、一連の作業を機械化する取組を行っています。

6月初旬に行われた作業実演会では、水稲育苗施設を活用して育てた雑穀の苗を、野菜半自動移植機と改良した田植機の2種類を使って移植しました。参加した生産者は「従来の直播栽培では間引きや除草の負担が大きいのが、機械化で楽になる」「畑の状態によっては苗がうまく植え付けられない」など意見を交わし、課題を検証しました。今後、機械移植技術の導入による一貫した機械化体系を確立し、現在の個別生産から地区内で協力を担う生産体制の構築を目指します。



生産者同士で操作方法を確認しあう



改良した田植機によって作業時間の短縮と生産拡大を図る



既存の水稲育苗施設を活用した雑穀の集約的な育苗

お問い合わせ先
二戸農業改良普及センター
TEL 0195-23-9208

担い手候補を発掘し 地域漁業を盛り上げる

漁業就業者の減少と高齢化が進む中、久慈地域では担い手を育てるため、平成27年度から高校生を対象に、地元漁業を知る機会として漁業体験「北の海人養成塾」を実施してきました。今年度から対象を地域の一般の方にも広げ「明日の浜人応援事業」として実施しています。

7月には、水産関係への就職を希望する高校生2人が設置網漁業を体験しました。様々な種類の魚が入った網起こしを体験しながら、漁師さんと楽しく交流した2人は「漁業の醍醐味を知った」「将来の選択肢が増えた」と話します。「地元漁業を見て体験することは、教育に大きく役立っている」と先生もこの取組の効果に期待しています。秋には、般の方を対象としたサケ漁体験を実施する予定です。

今後は、来年度開設予定の漁業研修機関「いわて水産アカデミー（仮称）」や市町村とも連携し、地域内の漁業就業者の育成に結びつけていきます。



早朝から漁業体験が行われた



久慈東高校 海洋科学系 大久保晋作先生
久慈東高校3年 佐々木源唯さん
久慈東高校3年 廣内咲さん

お問い合わせ先
東北広域振興局水産部
TEL 0194-53-4985

久慈地域の魅力を発信する 「広域道の駅」を整備

2020年に予定されている三陸沿岸道路の全線開通を見据え、久慈地域の4市町村（久慈市、洋野町、野田村、普代村）の玄関口となる「広域道の駅」が、久慈北IC周辺に整備される予定です。新鮮な海の幸をはじめとする地産品の販売のほか、地元食材を使ったレストラン、観光案内などの設置を計画しています。道路利用者のニーズに応えるとともに、地域の魅力をアピールします。

広域道の駅は、道路利用者が久慈地域を通過するのではなく、立ち寄り場所にするための拠点施設です。三陸沿岸道路から、各市町村の道の駅や観光地へと人の流れが生まれれば、大きな経済波及効果が期待でき、地域の活性化にもつながります。



広域道の駅 イメージ図

お問い合わせ先
久慈市総合政策部広域道の駅整備推進室
TEL 0194-52-2115（直通）

オール二戸で醸した地酒が 世界規模の品評会で1位に

二戸市の酒蔵、南部美人の特別純米酒が「IWC（インターナショナルワインチャレンジ）2017」日本酒部門で世界一の称号「チャンピオン・サケ」を受賞、世界最大の市販酒品評会「SAKE COMPETITION 2018」のスパークリング部門と純米大吟醸部門で最高位のGOLD1位を受賞しました。5代目蔵元の久慈浩介さんは、「IWCの受賞酒は、二戸市産の岩手県オリジナル酒造好適米『ぎんおとめ』を使っています。この米がなかったら、世界一になれなかった。岩手県や二戸市の皆さんとともにいただいた賞です」と語ります。

南部美人では、ここ数年で、3人の杜氏を中心に切磋琢磨できる環境づくりや、それを支える設備の導入など改革を行ってきました。伝統と革新を融合しながら、更なる挑戦が続きます。



左から戸館弘幸岩手県商工労働観光部長、遠増拓也岩手県知事、久慈浩介南部美人社長、藤原淳二戸市長



スパークリングの部と純米大吟醸の部でふたつのトロフィーを受賞

お問い合わせ先
二戸地域振興センター地域振興グループ
TEL 0195-23-9201

